

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 73人

② 算数 73人

5 留意事項

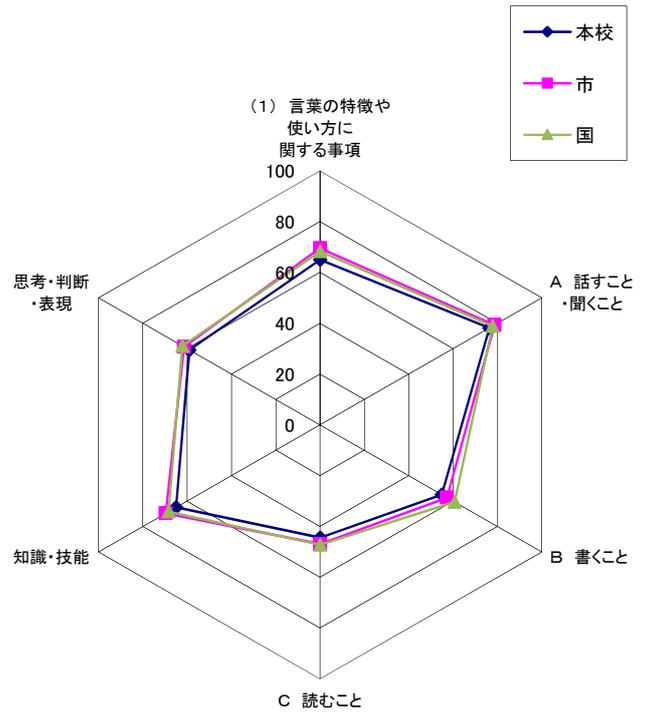
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	65.0	69.6	68.3
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	76.4	78.7	77.8
	B 書くこと	54.9	57.3	60.7
	C 読むこと	44.4	46.9	47.2
観点	知識・技能	65.0	69.6	68.3
	思考・判断・表現	59.0	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

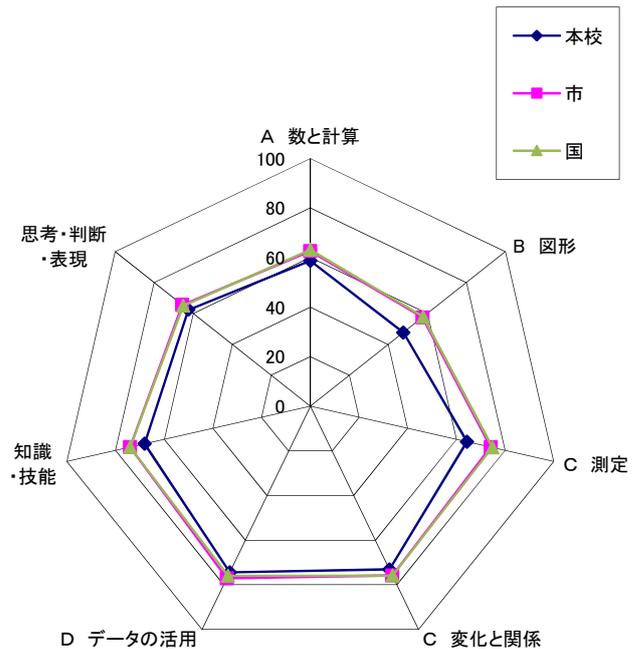
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は65%で、全国平均より3.3ポイント低い。</p> <p>● 漢字を書き直す問題に対する平均正答率は75%、45.8%、73.6%で、全国平均よりそれぞれ3.3ポイント、8.6ポイント、5.4ポイント下回った。</p>	<p>・既習の漢字を日常で使えるように、様々な場面で漢字で書くよう指導する。</p> <p>・授業中や朝の会、家庭学習などで、繰り返し漢字の練習を行ったり、漢字の書き取りテストを実施したりして、定着を図る。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は76.4%で、全国平均より1.4ポイント低い。</p> <p>● 「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」という問題に対する平均正答率は73.6%で、全国平均より3.9ポイント下回った。</p> <p>○ 「目的や意図に応じ、資料を使って話す」という問題では、平均正答率は87.5%で、全国平均より6.5ポイント高かった。</p>	<p>・話を聞く活動では、自分の意見と友達の意見と比べながら聞き、考えを深め、自分のスピーチに生かせるようにする。</p> <p>・目的や意図に応じて、文章の構成を考えて書いたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりする活動を繰り返し行い、書く力を育てたい。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は50.2%で、全国平均より4.3ポイント低い。</p> <p>● 「目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」という問題に対する平均正答率は45.8%で、全国平均より10.8ポイント下回った。また、無回答率が18.1%で、全国が無回答率よりも8.5ポイント高かった。</p>	<p>・自分なりの考えや理由を明確にし、短文でまとめる活動を行ってから文章の構成を考え、相手に伝わるように書き表し方を工夫する活動に広げるなど、実態に応じ、段階的に指導する。</p> <p>・朝の会や授業中など、日頃から自分の思いを表現する活動を意図的に取り入れる。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は78.8%で、全国平均より2.9ポイント低い。</p> <p>● 「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」という問題に対する平均正答率は25%で、全国平均より4.7ポイント下回った。また、無回答率が15.3%で、全国が無回答率よりも9.8ポイント高かった。</p>	<p>・調べ学習や読書活動では、目的に応じて、本や文章を選ぶことができるよう指導する。</p> <p>・内容的に正確に押さえて読むことができるよう、書いてある内容と自分の考えを区別して書く活動を取り入れる。</p>

宇都宮市立陽南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	58.7	62.6	63.1
	B 図形	47.7	57.5	57.9
	C 測定	64.4	74.1	74.8
	C 変化と関係	73.1	75.8	75.9
	D データの活用	74.4	77.1	76.0
観点	知識・技能	68.1	74.1	74.1
	思考・判断・表現	62.5	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は58.7%で、全国平均より4.4ポイント低い。</p> <p>●「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する」という問題に対する正答率は55.6%で、全国平均を6.9ポイント下回った。</p> <p>●「基準量を1としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述する」という問題に対する無回答率は20.8%で、全国平均より10.5ポイント高かった。</p>	<p>○問題文の内容を正確に捉え、数直線に表す練習を繰り返し行い、定着を図る。</p> <p>●比較量と基準量の意味を復習するとともに、なぜそのように考えるかなど、求め方や式の意味を図や表を使って説明する学習活動を設定し、思考・判断・表現力の向上を目指す。</p>
B 図形	<p>平均正答率は47.7%で、全国平均より10.2ポイント低い。</p> <p>●「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる」という問題に対する正答率は56.9%で、全国平均を15.6ポイント下回った。</p>	<p>○合成や分解などの図形の構成に着目して面積を求める練習を行うとともに、実際に図形を折ったり切ったりする活動を通して、視覚的に捉えながら複雑な図形の面積が求められるよう繰り返し指導する。</p>
C 測定	<p>平均正答率は64.4%で、全国平均より10.4ポイント低い。</p> <p>●「条件に合う時刻を求める」という問題に対する正答率は80.6%で、全国平均を8.6ポイント下回った。</p>	<p>○問題文から時系列を読み解き、60進法である時刻の計算の練習を行うことで式の意味を理解できるよう指導する。</p> <p>●基本的な考え方を活用する問題に繰り返し取り組むことで、基礎の定着を図る。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は73.1%で、全国平均より2.8ポイント低い。</p> <p>○「速さを求める除法の式と商の意味を理解する」という問題に対する正答率は59.7%で、全国平均を3.9上回った。</p> <p>●「速さと道のりを基に、時間を求める式に表す」という問題に対する正答率は75%で、全国平均を10.1下回った。</p>	<p>○単位量あたりの大きさの意味や考え方を復習し、問題から「距離」「速さ」「時間」が示すものを探し出すことで、立式を導けるよう繰り返し指導する。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は74.4%で、全国平均より1.6ポイント低い。</p> <p>●「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する」という問題に対する無回答率は19.4%で、全国平均より9.1ポイント高い。</p>	<p>○複数のデータを比較しながら変化を読み取る練習を繰り返し行うとともに、問題文を理解して必要な情報をグラフから抽出する練習を行い、定着を図る。</p> <p>●社会や理科など、統計資料を扱う単元との関連も図りながら、教科横断的な指導を行い、グラフを読み取る力や活用する力を育む。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対する肯定割合は91.7%、「学校に行くのは楽しいですか」の質問に対する肯定割合は89%と全国の肯定割合をそれぞれ14.8ポイント、5.6ポイント上回っている。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の質問に対する肯定割合も89%と全国の肯定割合より8.6ポイント高い。児童は学校生活の中で、友達や教師とともに生活することへの満足感や安心感が高いと思われる。今後も仲間とともに成長できるような環境づくりに努めていく。

○「5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問に対する肯定割合はともに90.4%で全国の肯定割合をそれぞれ7.8ポイント、17ポイント上回っている。話し合い活動では、きちんと拳手し、自分の立場を明確にしなが考えを述べるとともに、友達の考えに対しては、うなずき、受け止めようとしながら聞く姿が見られる。これらの様子から、お互いのよさを認め合い、助け補い合いながら協力して活動することに肯定的なイメージをもっていていると考えられる。今後も話し合い活動が充実するような声掛けや支援を行ってきたい。

○「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」の質問に対して、「1時間より少ない」、または「全くしない」と回答した割合は45.2%で全国の割合より21.5ポイント高い。学校生活がある曜日については、ゲーム関係の使用頻度が低いといえる。今後も継続して、携帯電話やスマートフォン、テレビゲーム関係との付き合い方について指導してきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」の質問に対する肯定割合は69.8%で全国の肯定割合を4.2ポイント下回っている。与えられた課題に対しては、きちんと取り組む様子が見られる。今後は、各単元のまとめの際、自分に必要な学習内容に取り組む時間を設定するとともに、家庭学習における自主学習なども継続して推奨していく。

●「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使っていますか」の質問に対して、「週1回以上」または「ほぼ毎日」と回答した割合は8.2%で、全国の割合より30.8ポイント低い。「月1回以上」と回答した割合が58.9%だったことから、この時期においては、使用頻度が低かったと言える。現在、Chromebookを活用し、各教科の予習・復習や電子ホワイトボード機能を使っての意見交流などを行っている。今後も、継続して取り組ませていきたい。

● 国語や算数に関する書く問題への解答の仕方を問う設問について、「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった」と回答した割合は国語で21.9%、算数で23.3%と全国の割合よりそれぞれ5.7ポイント、5.5ポイント高い。各教科の振り返りの時間を有効に活用し、自分の考えや意見を書く活動を多く取り入れ、自己表現ができる児童の育成に努めたい。

宇都宮市立陽南小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えが相手に伝わるように、分かりやすく書き表したり話したりして、豊かに自己表現できる児童の育成。	・自分の考えを書かせて説明させるなど、書く活動、聞く・話す活動を学習内容に応じて工夫する。 ・授業の終末では、身に付けるべき基礎・基本を分かりやすくまとめるとともに、学んだことを振り返る活動を充実させるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	・「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対する肯定割合は84.9%と、全国の肯定割合を6.1ポイント上回った。 ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問に対する肯定割合は93.1%と、全国の肯定割合を12ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
普段(月曜日から金曜日)、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を学習のために使用しているかどうかを問う設問に対して、「全く使っていない」と回答した割合は39.7%で、全国(20%)、県(19%)の割合を大きく上回った。	ICT機器を活用しながら学び合う活動を取り入れ、協働して課題を解決することのよさに気付かせる。	・ICT機器を活用しながら、国語の語句の意味や社会の歴史的事象などを調べたり、まとめたりするような課題を設定するとともに、互いに閲覧したり共有したりする場面を設定することで、互いのよさを生かしながら課題に取り組めるようにする。 ・AIDリルを適切に活用しながら、各教科のまとめや復習などを行う。